

平成30年度
第2回加賀市健康福祉審議会高齢者分科会会議録

日 時：平成30年10月18日（木）午後1時30分～2時55分

場 所：加賀市役所別館302・303会議室

出席委員：小林、湯谷、◎橘、鈴木、河嶋、浅野、本間、中野、西谷、松本、澤田、見付、中屋

欠席委員：田端、○南野、中村、鹿野（敬称略・◎会長、○副会長）

次第

開 会
議 題

1. 保険者機能強化推進交付金（財政インセンティブ）について 【資料1】
2. 短期集中型サービスCの検討状況について 【資料2】
3. シニア活動応援事業の実施状況について 【資料3】
4. 地域包括支援センターブランチの選定について 【資料4】
5. 地域密着型サービス事業者の指定（更新）について 【資料5】

閉 会

議事要旨

議題1 保険者機能強化推進交付金（財政インセンティブ）について 資料1

・ 同（別添資料）

質疑応答

橘会長 昨年度は何点であったか。

事務局 今年度から始まったもの。

議題2 短期集中型サービスCの検討状況について 資料2

質疑応答

橘会長 新しいサービスということで、対象者は今後検討会で検討するということであるが、始まりと終わりを明確にして達成してもしなくても3か月か6か月で終わるといことが大事。引き続き検討して行ってほしい。

事務局 はい。

議題3 シニア活動応援事業の実施状況について 資料3

質疑応答

見付委員 素晴らしい取り組みであるので多くの方に知ってもらって利用してもらいたい。住民への周知はどのようにおこなっているか。

事務局 ボランティアの募集については広報掲載やチラシの配布などで行っている。

利用者側について提供側会員がまだ少ないためケアマネジャーなどを通じて申し込むことにしておりケアマネジャーへの周知を行っている。

小林委員 活動実績・活動内容について20名の会員ということだが地域の散らばりはあるか。年齢の幅、男女差があるかどうか。足代100円はどのような形で支払うか。いいことなのでいろいろな年齢の方が参加してもらえるとよい。

事務局 1か所に固まっているということはないが、足の問題もあり提供者と同じ地域で提供してもらいたいと思っているが、まだ20人ということですべての地区をカバーできる状況ではない。年齢については手元にデータがないが、かなり高齢の方もいる。100円についてはサービス提供時に利用者からボランティアに直接渡してもらっている。事業としての利用料ではなく、あくまでお礼でありそのままボランティアさんのものしていただいている。

中屋委員 実は私もちよボラ隊の隊員。現在男性は2名。先日は、高齢で月1回のごみ置き場の片づけ当番ができない方の代りにやってきた。自転車で20分くらいのところ、カラス除けの網を片付ける仕事をして100円もらってきた。このような形でやっている。

事務局 ありがとうございます。

本間委員 年齢としては何歳からか。全国的には若い方も参加している例があると思う。ワンコインとして500円でやっているところもある。山奥のおばあさんが若い人が来てくれるのを楽しみにしている例も聞いたことがある。次の世代につなげ、ひろげるため、高齢者だけでなく幅広い年齢層に広げていければと思うがどうか。

事務局 今後広げていくことを検討したい。事業としてはシニア活動応援事業ということで想定としては元気な高齢者に活躍していただきたいという趣旨から始まっているが、制限せずにやっていきたい。

議題4 地域包括支援センターブランチの選定について 資料4

質疑応答

鈴木委員 これでよいかと思う。市全体のブランチ数を今後検討する必要があるということだが、ブランチ設置については最初小規模多機能にということだったが、今回小規模特養初めてだが、今後ここにも必要となれば小規模多機能がないエリアであればその他の事業所も認めるということになるのか。

事務局 26年にブランチ構想を議論した際に、事務局から小規模多機能での設置を提案したところ、地域密着サービス事業所でも設置が可能ではないかとの意見があったので第7期はそのような考え方でいきたいが、三木、三谷、塩屋に地域密着型事業所が近いうちに設置されるかということと難しい。例えば大聖寺のブランチに三木塩屋もお願いしていくということも考える必要があると思う。また提案させていただく。

議題5 地域密着型サービス事業者の指定（更新）について 資料5

質疑応答

鈴木委員 サテライト化する理由がわかれば教えてほしい。

事務局 人材の効率的な配置をしたいということ。

鈴木委員 公募で経営の確認を受けて選定されていると思うが、定員が減ることによって経営への影響が経営診断などで確認されているか。

事務局 今回については既に登録人数が18人になっており定員を減らしても経営上の影響はないと聞いております。経営状況については指定更新の際に決算書類を提出いただいて経営状況について判断している。公募時の経緯については国県補助金が入っているが、補助金投入した事業が健全に経営されるかどうかを確認している。定員減によって公募時に想定していたサービス量が確保されるかどうかという点については現時点で登録が18名ということでその点においても問題はないと考えているところ。

鈴木委員 実際が18名ということと経営収支がどうかは別であって、定員変更後のシミュレーションが提出されるなどしてチェックされているのかを確認したい。事業所として経営が成り立つのか、法人全体として成り立つのか、問題なければよいが、そのようなチェックがなされているのかということを知りたい。

事務局 事業所が赤字であるか黒字であるかより事業が継続可能であるかどうかを重視している。定員が変更になった時にサービスの質がどうなるか、圏域としてのサービス量がどうなるかを確認させていただいているが、事業所単体の経営状況については確認していない。今後、サテライト化を考えている事業所があれば早めに相談に乗らせていただく。

橘委員 サテライト化に当たって経営上の資料を出してもらっているのか。

事務局 求めている。

橘委員 昔はなかったサテライトという仕組みができたメリットや必要になった理由を教えてほしい。

事務局 国が小規模な事業所を増やしたいと考えて、管理者一人で複数事業所を管理するという方法を導入した。国は1本体につき2サテライトまでとしているが、加賀市はサービス提供上懸念から1サテライトまでとしている。

鈴木委員 サテライト化してもブランチはそのままという考え方でよいか。

事務局 ブランチが存続できる体制であることは届け出の前段階で確認している。

西谷委員 健康寿命を延ばすということがこの分科会では議論しないのか。これまでどのような議論がされてきたのか。

事務局 65歳以上の方の介護予防としてはこの分科会で議論していくことになるが、健康寿命というタイトルでは出てこないのだからわかりにくいと思う。今回の議題で言えばシニア活動応援事業などが該当する。健康分科会において健康寿命というテーマでやっているが、高齢者分科会においては介護予防することによって健康寿命が延びるという考え方でやっている。

- 西谷委員 以前に高齢者向けのソフトテニス教室をやったが、担当がスポーツ課だった。前年に練馬区で同じことをやって役所が受付や募集などしている講師は協会から公費ではいっている。ソフトテニスは野球などより人数が少なくてもできるので高齢者に最適。スポーツ課にやってほしいと頼んだが取り合ってもらえなかった。健康寿命を延ばすためにスポーツが重要。市でいろいろなコースを作ってやってほしい。
- 事務局 スポーツ課、健康課ともに指導も含めてやっているが、市だけでは限界がある。各種スポーツ協会や健康団体などをお願いしてやっていただいているのが現状。今の提案についてもできるだけ取り組んでいきたい。

閉会